



営農NEWS



イネ育苗中における苗立枯病害の防除対策

イネの「健全な苗づくり」は、田植え後の順調な活着や生育を促し、しいては収穫の良し悪しをも決める重要な管理作業です。このため、不適切な環境状態や管理をすると、苗の軟弱徒長や各種病害が発生しやすい状況になる恐れがあります。育苗中に発生する病害対策としては、予防が基本で、種子や育苗資材などの消毒を徹底し、病害の発生しにくい環境づくりを維持し、適正な灌水管管理などを励行することが重要になります。しかし、不幸にも病害が発生した場合は、早期に防除対策を実施する必要がありますが、イネで育苗中に使用できる苗立枯病害に有効な登録農薬が限られているため、薬剤防除と合わせて、耕種や物理的防除などを積極的に取り入れた総合防除で対応する必要があります。

1 育苗中に発生する主な病害

- 1) 細菌病には種子伝染するもみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病があります。これら細菌病を病徴で区別することは困難ですが、もみ枯細菌病の発病株が他に比べて、心葉が比較的容易に引き抜けることが特徴です。細菌病はいずれも、高温、多湿条件で発生しやすくなります。防除対策として、種子消毒や播種時に薬剤処理する方法がありますが、育苗中に防除する登録薬剤がありません。このため、育苗中は施設内の温度管理（30℃以上の高温を避けるなど）に十分注意し、発病や被害拡大の阻止に努めます。
- 2) カビによる苗立枯病として、①ピシウム菌、②フザリウム菌、③リゾクトニア菌、④リゾープス菌、⑤トリコデルマ菌などがあります。①はカビの発生がほとんど見られませんが、②では、モミを中心に白色ないし淡紅色のカビ、③では、クモの巣状の白いカビや菌核、④では、表面全体に白色～灰色のカビ、⑤の一種は、表面やモミに、初めは白色で、後に青緑色に変わるカビが発生すると、区別することができます。なお、ムレ苗の発生にも、ピシウム菌の一部が関与するとされています。育苗中の薬剤防除として、下記を参考に予防や早めの防除対策に努めてください。

第1表 イネ育苗中に発生する苗立枯病の主な防除薬剤

(令和4年3月10日現在)

薬剤名	ムレ苗防止	ピシウム菌	フザリウム菌	リゾクトニア菌	リゾープス菌	トリコデルマ菌	苗立枯細菌病	希釈倍数および使用方法	使用時期	使用回数	その他の使用目的	分類
ナエファイン 粉剤	○	○	○		○			育苗箱1箱当たり6~8gを土壌に均一に混和する	播種前	1回	根の生育促進、移植後の活着促進	U17
タチガレエース M粉剤	○	○	○					育苗箱1箱当たり6~8gを土壌に均一に混和する	播種前	1回	根の生育促進	4と32
ナエファイン フロアブル	○	○	○		○			2,000倍液を、育苗箱1箱当たり0.5~1ℓ土壌灌注	播種時	2回以内	根の生育促進、移植後の活着促進	U17
								1,000倍液を、育苗箱1箱当たり0.5ℓ土壌灌注				
								1,000~2,000倍液を、育苗箱1箱当たり0.5ℓ土壌灌注	播種時~緑化期		根の生育促進、移植後の活着促進	
タチガレエース M液剤	○	○	○					1,000倍液を、育苗箱1箱当たり1ℓ土壌灌注	播種時	1回	移植時の活着促進、根の生育促進	4と32
								500~1,000倍液を、育苗箱1箱当たり500ml土壌灌注				
タチガレン 液剤	○	○	○					500~1,000倍液を、育苗箱1箱当たり500ml土壌灌注 ※	播種時及び発芽後	2回以内	移植時の発根および活着促進、根の生育促進	32
ダコレート 水和剤			○		○	○		400~600倍液を、育苗箱1箱当たり0.5ℓ灌注 ※	播種時~緑化期、但し播種14日後まで	2回以内	いもち病(苗いもち)	1とM5
バリダシン 液剤5				○				1,000倍液を、育苗箱で1箱当たり500ml灌注	播種時~発病初期	1回	苗立枯病(白絹病菌)	U18
カスミン液剤							○	4~8倍液を、育苗箱1箱当たり50mlを播種した種籾の上から均一に散布	覆土前	1回	いもち病(苗いもち)、幼苗腐敗症(イネもみ枯細菌病菌)、褐条病	24

注) 1 育苗箱は30×60×3cmで、使用土壌が約5ℓです。なお、※は上記以外にも処理方法がありますので、適切な処理方法をラベルで確認してください。
 2 タチガレエースMおよびタチガレン液剤には同一有効成分が含まれていますので、総使用回数に注意してください。
 3 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課
 電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040